

## 第29期第6回理事会議事録

日時：1998年5月27日（水）17時35分～21時00分

場所：東京管区気象台会議室

出席者：松野、関口、二宮、村松、藤部、新野、田中（博）、木田、城尾、竹村、塩原、廣田、笹野、菊池、田中（浩）、山下、宮原、石島 以上18名

その他の出席：事務局（島津、館）

### 議事：

1. 第29期第16回常任理事会議事録の確認
2. 各委員会関連議事

庶務…転載許可：3件

- (1) 「気象集誌」Vol. 73, 909～923, Vol. 75, 657～675, Vol. 75, 753～760をEORC bulletinの「Collected Papers and Abstracts Vol. 1」へ。
- (2) 「天気」Vol. 29, 1117の第3図を、森北出版（株）気象利用研究会編「気象利用学」へ。
- (3) 「天気」Vol. 39, 611の第9図、および、Vol. 40, 104の第5図を、放射線利用協議会の「数値モデルによる放射能の大気拡散評価」へ。

・後援名義等使用依頼：5件

- (1) GPS 国際シンポジウム—地球科学への応用—の主催  
日本学術会議測地学研究連絡委員会、日本海洋技術調査学会、日本測地学会、日本地震学会、日本火山学会の主催。1999年10月18～22日、つくば国際会議場（茨城県つくば市）にて。
- (2) 第15回エアロゾル科学・技術研究討論会の共催  
日本エアロゾル学会の主催。1998年8月20～22日、埼玉大学大学会館他（浦和市下大久保）にて。
- (3) 第11回国際女性技術者・科学者会議の後援  
日本学術会議・日本女性科学者の会・日本女性技術者フォーラムの共同主催、日本女子薬剤師会・女性技術士の会協賛。「環境」をテーマに、平成11年7月24～27

日、千葉市幕張メッセ・国際会議場にて。本件については、相応の資金援助をすることを決定した。

- (4) 48回科学講演会の後援

（財）東レ科学振興会の主催、日本海洋学会、朝日新聞社にも後援依頼中。平成10年9月18日、有楽町朝日ホール（東京都千代田区有楽町マリオン）にて。

- (5) 第3回GEWEX（全球エネルギー・水循環実験）国際会議の後援

WMO/WCRP（世界気候研究計画）主催、GAME（GEWEX アジア・モンスーン実験）国際科学パネル、宇宙開発事業団、水文水資源学会、中国気象学会も後援予定。1999年6月8～12日、北京（中国）にて。

・会計監査の実施 4月20日

・「気象用語委員会設置について」の照会 小倉義光会員より 4月24日  
気象用語の統一に対する学会の取組状況について照会があり、次期（第30期）から常設の委員会を設置することに決定している旨、説明することになった。

・国際学術研究集会出席補助金の支給 高田久美子（国立環境研究所） 5月13日

・「新教養の気象学」刊行に関する書類の受領 朝倉書店より 5月15日  
刊行通知書、出版契約書、編集料支払契約書。

・「天気」編集会計報告（1997年度分）編集委員会より 5月20日  
「天気」への論文投稿料徴収については、編集経費の長期的見通しを確認し、さらに検討することになった。

・平成10年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費」  
交付の内定通知の受領と申請書等の提出 交付予定額5,310,000円 5月25日

・総会委任状の集計状況 合計 723通 5月25日現在  
総会定足数（通常会員数の1/5）815名、その内、総会出席必要会員数163名（通常会員数の1/25）以上。

会計…1998年4月の収支報告

天気…Vol. 45 No. 5 (1998年5月号) 掲載記事と、

Vol. 45 No. 6~7号掲載予定記事の紹介

気象集誌…Vol. 76 No. 3 (1998年6月号) 掲載記事の紹介

気象研究ノート…1998年度の編集作業進捗状況の紹介と見通し

教育と普及…第32回日本気象学会夏季大学の予定の紹介

テーマ:「気象を測る」気象観測の発展と展望。1998年8月5~7日, 東京大学山上会館にて, 3日目は見学コースを設定。

・「新教養の気象学」印刷完了

・学校科目「地学」関連学会連絡協議会第13回会合の報告

(1) 学会間の「地学教育」関連情報の交換システムとして, 日本地学教育学会のホームページから各学会のホームページへのリンクを設定する。

(2) 初等・中等レベルの教育課程「地学」で教育すべき必須の内容を次回会合で検討するので, 各理事からも意見を欲しい旨, 担当理事から依頼があった。

電子情報…1998年4月の気象学会ホームページのアクセス状況 (49,956件)。

その他…シンポジウム開催の予定 日本学術会議気象研連からの報告

気象研連として, 自由参加のシンポジウムを1998年秋季から日本気象学会の各大会前日午後開催することとなり, 2000年秋までのテーマと座長を検討中であることが紹介された。

### 3. 会員加入状況

新入会員62名を承認, 退会3名の報告。会員数

4,646名 (内, 通常会員4,121名)。

### 4. 気象学会総会資料の検討

総会での審議事項として総会資料に掲載された各項目の内, 1997年度事業報告・収支決算, 1998年度事業計画案・予算案を確認すると共に, 監査報告, 第30期役員を選任, 「奨励金」を「奨励賞」に改めることに伴う細則の改正を検討して, 承認した。

### 5. 2000年度春季大会の担当機関の決定

標記の担当機関として, 気象研究所に依頼することが承認された。

### 6. 各賞受賞者選定規定の改正

「気象学会賞受賞者選定規定」の記述を対応する細則と整合させる件, および, 「堀内賞受賞者選定規定」にメダル授与の記述を追加する件について検討し, 承認した。

### 7. その他

#### ・「気象講習会」開催

「気象予報士」制度の充足等に伴って, 気象学に対する能力向上を要望する人が増加している。これに応えるため (財) 気象業務支援センターと気象講習会の共催を計画し, 学会は講師選出を分掌する旨, 総合計画担当理事から紹介があった。気象学の様々のレベルでの教育と普及を進めることは, 学会の役割にふさわしいので, 対象者を気象予報士に限らないことを条件として, 協力することを承認した。

#### ・地球物理学関連学会会長等の懇談会の開催

IUGG (国際測地学地球物理学連合) の2003年総会の日本招致や地球環境問題への取組に関連して, 学会の枠を越えたより効率的な取組が必要となっている。これに関する関連学会会長等による意見交換のため, 1998年5月25日に国立オリンピック記念青少年総合センターで非公式な懇談会を開催した旨, 理事長より報告があった。